



# のびのび若っ子

## 新しい年を迎えて

校長 池田 千穂

新年あけましておめでとうございます。昨年中は多岐にわたり、ご理解・ご協力を賜りありがとうございました。

さて、1月24日から30日は給食週間です。代表委員会では給食について全校に知ってもらう活動について話し合い、給食委員会が中心に取り組みます。本校は残渣が少ないです。それは着任して驚いたことの一つです。残渣が少ないことは調理員さん、栄養士さんにとって何よりも嬉しいことです。

日本で最初の給食は、山形県鶴岡町の大督寺の中にあった私立忠愛小学校で出されたと言われています。明治22年、この小学校を建てたお坊さんが、お弁当を持って来られない子ども達に昼食を出しました。現在もこの学校には「学校給食発祥の地」という記念碑が建っています。この時のメニューが「おにぎり、焼き魚、漬物」と言う事で、当時のメニューにちなんで給食週間には毎年「セルフおにぎり」が出ます。自分のおにぎりは自分で握ります。子ども達も楽しみにしているメニューの一つです。



全給連「学校給食の歴史」より

日本では食事の前後に感謝の気持ちを込めて挨拶をします。「いただきます」「ごちそうさまでした」です。誰もが当たり前にはしていますが、外国にはこの「いただきます」「ごちそうさまでした」に相当する挨拶はないようです。「たくさん食べよう」「召し上がれ」「さあ、食べよう」という言葉はあるのですが、日本のように作り手にお礼するだけでなく、食材への感謝も込めた言葉はないようです。「ごちそうさま」は漢字で書くと「ご馳走様」と書きます。昔はスーパーマーケットやコンビニがあるわけではないので、あちこち走り回って食材を集め、食事を用意しました。そんな苦勞をして振舞ってくれたその事に感謝するという意味だそうです。もてなすために走り回って食材を集める心遣いとその事を慮れる優しさを感じました。東京オリンピック招致活動で「お・も・て・な・し」という言葉が流行りましたが、相手を思いやる気遣いの文化が食事の挨拶に息づいていると思いました。

本年も、「自他共に大切に作る心を育てる」を教育目標に、子どもの成長のために、教職員一同で協働して支援にあたります。保護者の皆様、地域の皆様、本年も変わらぬご理解とご支援のほど、よろしくお願いいたします。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』